

2. 知の創造・交流を促進する

地域科学技術システムの構築

2 - 1 「知の中央ステーション: H S T」の構築

(1) 九州大学と一体となった知の戦略拠点

21世紀を迎え、「工業社会から知識社会への移行」というメガ・トレンドが社会各層に着実に浸透しつつあり、「グローバル化の進展」によって経済活動や暮らしのありようは急速な変化をみせています。また、情報通信技術の発達・普及によって従来の階層型・ピラミッド型社会構造に代えて、「分権・ネットワーク社会の展開」が一気に加速されています。反面ではそれと歩調をあわせる形で「企業間・地域間の国際競争激化」が避けようのない流れとなっています。

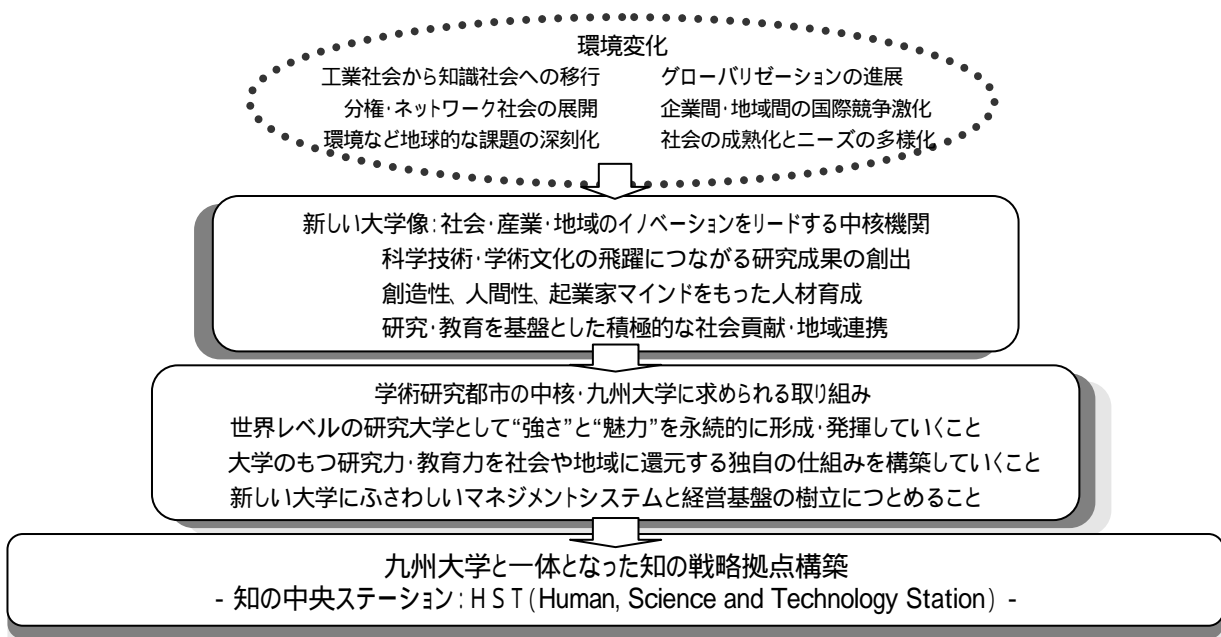
工業社会において全面的な展開をみせた科学技術が人々の生活を格段に豊かにするとともに、「環境など地球的な課題の深刻化」をもたらし、その負の遺産を引き継いだ21世紀は人類的視野で取り組むべき様々な課題に直面しています。さらに、高齢化など「社会の成熟化とニーズの多様化」がすすむなかで、科学技術をはじめとする知の活用によって、課題解決や変化への機敏な対応を進めていくことが企業、地域、行政の共通テーマとなっています。

このように、新しい時代は「知」の役割を急速に浮上させ、知の拠点である大学に対する期待を高めています。とりわけ、全国に先駆けた意欲的な自己改革を進めている九州大学は、新キャンパスづくりを契機に、社会・産業・地域のイノベーションをリードする中核機関としての役割を確立し、知の時代における「新しい大学」としての存在感を発揮していくことが期待されています。

九州大学には、「世界レベルの研究大学として“強さ”と“魅力”を永続的に形成・発揮していくこと」が求められ、研究大学としての活動を基盤に、「大学のもつ研究力・教育力を社会や地域に還元する独自の仕組み」と「新しい大学にふさわしいマネジメントシステムと経営基盤」の構築に積極的に取り組むことが不可避になってくると思われます。

本構想では九州大学の展開を支えるとともに、知の創造・交流・活用を促進する多様な機能が集積し、地域科学技術システムの戦略拠点の役割を担う、産学民公の協働空間「知の中央ステーション: H S T (Human, Science and Technology Station)」の整備・実現をめざします。

九州大学と一体となった知の戦略拠点構築

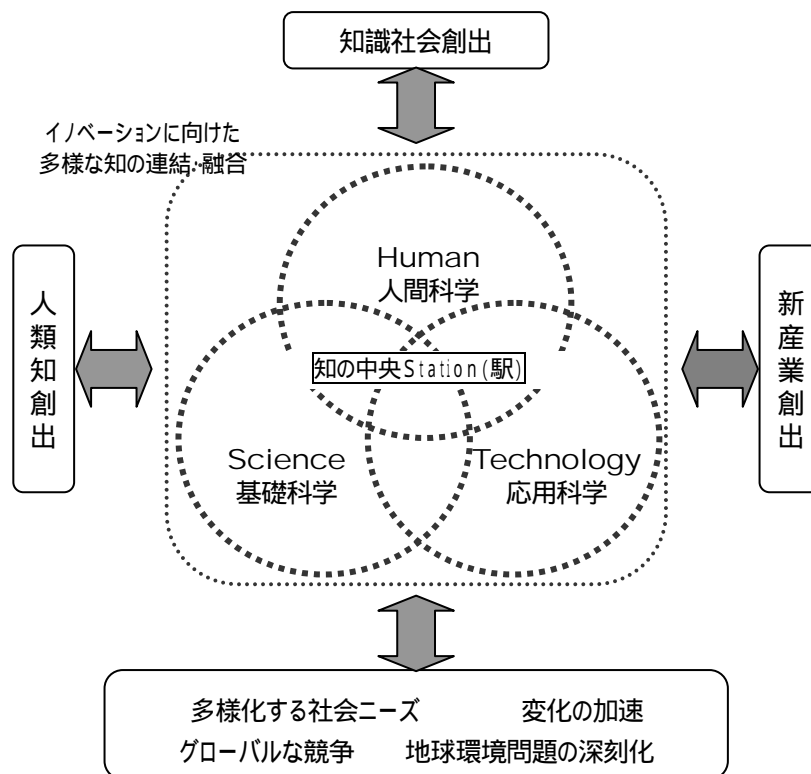


(2) 「知の中央ステーション：HST」のコンセプト

知識の交流・連結・発信拠点「知の中央ステーション」

- ・新しい価値や可能性、革新的（イノベティブ）な発想は異質なものがぶつかりあってこそ生まれます。多様な知識の出会いと融合の舞台が用意され、知の向かうべき方向とビジョンが発信されていく拠点「知の中央ステーション」を大学と産業、市民、行政が一体となっていかに実現していくか。そのことが21世紀の科学やイノベーションの行方を制していくことになると思われます。
- ・生活ニーズ・地域ニーズに密着した課題解決型プロジェクト、原理的なレベルの知識革新をめざす基礎研究プロジェクトのいずれにおいても、多様な知を連結・融合させる重要性が増しています。象徴的には、知のステーション（駅）において、産学民公が課題と資源を持ち寄り、特別編成列車（プロジェクト）を仕立て、クリエイティブな総合知・融合知を生みだしていくことが時代の切実な要請となっているのです。もちろん、ステーションから出発する知の特別編成列車はアカデミズムの枠に踏みとどまることなく、人間、社会、地球と多様な方向に向かっていく必要があります。
- ・本構想のねらいは、九州大学と一体となった「知の中央ステーション：HST」の構築を推進力として、地球上で存在感を発揮できる巨大な知の創造空間を糸島・唐津から福岡にいたるエリアにおいて実現していくことにあります。

“知の中央ステーション：HST”の機能

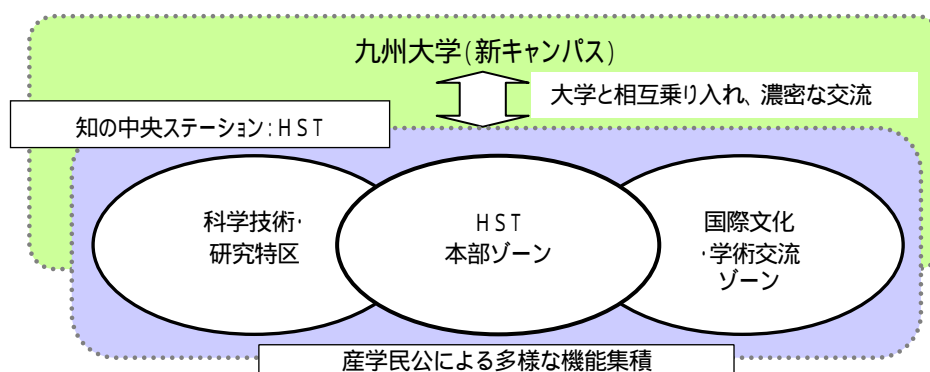


九州大学学術研究都市の「顔」「エンジン」として整備

- ・「知の中央ステーション：HST」においては知の交流・連結・発信をめざし、産学民公の多様な機能整備と活動展開が期待されますが、そこでは様々な人材が組織のカベや学問領域を超えて自由に交わり、協力し、相互触発できる仕組みや雰囲気全体として実現していくことが極めて重要になってきます。

- ・もちろん、知的交流は必ずしも特定の場所や空間に限定されるものではありません。インターネットをうまく活用すれば、空間をこえたグローバルな知識交流も可能となっています。しかし、知識創造の核心部分とその伝達・普及プロセスは、距離的な“近さ”と地理的な一体感を生かしたフェイス・トゥ・フェイスの密度の高い交流によってこそ、効果的かつ機敏に展開することが可能となります。
- ・そこで、本構想では知の濃密な交流拠点「HST」を「タウン・オン・キャンパス」において、大学と相互乗り入れする形で整備・構築します。「知の中央ステーション：HST」は大学との地理的な一体感を生かした知識交流と産学民公の協働をベースとして、「21世紀科学」の発信、産学共同の人材交流・育成舞台、新技術・新産業・ベンチャー企業の孵化空間としての役割を担い、九州大学学術研究都市の「顔」や「エンジン」として存在感を発揮していくことが期待されます。
- ・HSTの展開においては、HST本部ゾーン、科学技術・研究特区、国際文化・学术交流ゾーンの形成と、地域科学技術戦略についての研究、共同研究プロジェクトの企画・推進、研究サポート・学会運営業務の提供、研究開発・技術マネジメント人材の育成、交流事業など産学民公がそれぞれの役割に応じて機能整備を行っていくことが期待されます。加えて、多様な組織間・事業間の調整・連携が重要になってきますが、そうした役割を担うHST推進本部機能については「九州大学学術研究都市整備推進機構（仮称）」の設立に向けた検討のなかで、今後詰めていく必要があります。

知の中央ステーション：HSTの展開



知的クラスター(集積)を形成する要として

- ・知的活動の大きな結び目である「知の中央ステーション：HST」において活発な活動が繰り広げられるようになると、頭脳が頭脳を呼ぶ、知識が知識を生む、技術革新が技術革新を刺激するという上向きの知的循環サイクルが動き出します。そして、「シリコンバレー」の発展メカニズムと同じように、知的クラスター（集積）、産業集積の形成に向けた歯車がダイナミックに回転しはじめます。
- ・21世紀科学をめぐる知的活動は、グローバルな競争と変化の加速、あるいは人類が直面する様々な課題を前に、応用研究・開発研究のみならず基礎的な研究も、知識の利用や社会的価値を念頭にいた展開が不可欠な状況となっています。21世紀における大学の知的創造活動においては、産学連携や新産業創出さらには地域社会の発展など、ユーザーやクライアントとの相互関係を強めていくことが普遍的なテーマともなってきます。
- ・大学等研究機関で生みだされる知の産業的・社会的活用に向けた仕組みづくりは、地域科学技術システム構築の根幹をなし、知的クラスター形成のための必須条件でもあります。したがって、大学と産

業・社会を結ぶインターフェース機能の集積をめざす「知の中央ステーション：HST」は、九州大学学術研究都市推進の基幹エンジンとして、時代を先取りした自由な発想に基づく思い切った整備が求められます。

HSTから多様な企業や地域活動が“ほたる”としてスピノフ

- ・地域科学技術システムの戦略拠点「知の中央ステーション：HST」からは、知識の産業的・社会的利用を意識した多様なプロジェクトが生まれ、プロジェクトの成果は企業活動や実験的なコミュニティ活動として、大学周辺に“ほたる”として次々にスピノフしていきます。
- ・本構想では、人的交流・共同研究など大学との密接な関係をもちながら、糸島・唐津エリアにおいて分散的に展開される多様な活動の受け皿を“ほたる”と名付けます。「知の水源池」のまわりで、環境と共生しながら研究開発、デザイン、SOHO (small office, home office) ビジネスなど様々な活動を繰り広げる“ほたる”は地域の新たな活力を生みだしていきます。
- ・また、“ほたる”の生成・展開を宇宙の生成・進化になぞらえるとすると、九州大学やHSTを舞台とした知のビッグバンによって次々に“新星”が誕生、周辺エリアに光り輝く“星団”が形成されていくイメージでとらえることもできます。21世紀科学創出の契機となる「知の中央ステーション：HST」は、地球的な視野と同時に宇宙的な視点と感性をもつ「知の銀河鉄道駅」を目指す必要があるのです。
- ・「知の中央ステーション：HST」において展開される複合的な機能を生かしながら多様な“ほたる”が周辺に生成・展開していくことで、糸島・唐津エリアは環境と共生したユニークな知識経済圏としての存在感を手にすることができます。そして、グローバルな競争力を有する知の地域コミュニティとしての発展が可能となります。かつての大規模拠点開発型リサーチパークに代わる21世紀のモデルとして、糸島・唐津エリアでの“ほたる”の展開構想は九州大学学術研究都市のかなめの一つとなるものです。

(3) 「知のステーション」ネットワーク

プレステージ事業を「スマートタウン福岡」で展開

- ・日本においては、多様な知識や人材が既存の組織や領域を超えて交わり、そこから新たな価値や事業を創発させる営みは、社会的・歴史的にみて経験不足といえます。「知の中央ステーション：HST」において展開される知のコーディネーション活動は、知識や人間という流動的な要素を対象とするだけに、その手法や勤どころは、人間性や地域性を織り込んだ試行錯誤のなかで、時間をかけ“経験工学”や“学習プロセス”として身につけていくしかありません。
- ・そこで、「知の中央ステーション：HST」がタウン・オン・キャンパスにおいて整備されるのに先立ち、プレステージ的な取り組みとして、福岡都心（天神・博多のみならず、ももち、西新、大橋など副都心的な地区も含む）を高密度な知識交流が展開する知的都心（「スマートタウン福岡」）へと変身させる取り組みを、産学民公の垣根をこえた協働の取り組みとして呼びかけていきます。
- ・「スマートタウン福岡」の形成に向けた諸個人・諸組織のオープンな協働ネットワークという形で(仮称)DAF (Downtown Alliance, Fukuoka: 福岡都心創造協力会)を発足させ、知の交流・連

結・発信というH S Tの理念のもとに、産学連携や地域連携の多様な事業に取り組むというものです。研究開発機能立地(新キャンパス)と高次都市機能立地(都心)は地理的な条件は全く異なりますが、都心での経験と人的ネットワークの蓄積は、学術研究都市におけるH S T戦略の円滑な始動・展開を支える知的インフラとして大きな効果をもたらすに違いありません。

- ・また将来、九州大学学術研究都市の東西翼に形成される「H S T」と「スマートダウンタウン福岡」という2つの「知のステーション」は、互いに相乗効果を発揮し、西日本地区における巨大な「知の拠点」構築の推進力となっていくことが期待されます。

「知のステーション」の重層的な展開へ

- ・人と知識の交流・連結の結び目である「知のステーション」は、分権社会・知識社会の進展とともに、ある一定の空間的な広がりごとに形成され、それぞれの地域の独自性を発揮しながら、知のインフラとして重層的に展開されていくものと考えられます。
- ・本構想では長期的には、「H S T」(知の中央ステーション)、「スマートダウンタウン福岡」のみならず、唐津、佐賀、久留米・鳥栖、...と各地の「知のステーション」が相互に連携し、世界に開かれた「知のステーション」ネットワークとして発展することを想定しています。そして、“ネットワーク”をキーワードとする九州北部学術研究都市(アジアス九州)構想が、これら「知のステーション」の展開によってはじめてその具体像を見せ始めます。

2 - 2 「知の中央ステーション：HST」の整備方針

(1) HSTに想定される機能

多様な主体による機能整備

- ・ 知の交流・連結・発信の戦略拠点：HSTは、大学機能と一体となって、民間（企業、NPO）、行政（国、自治体）構想推進母体などが、それぞれの役割に応じた機能を展開していく舞台となるものであり、それぞれの機能がその役割を発揮することによって、全体として「知の中央ステーション：HST」が実現されます。

想定・期待される主体と機能

九州大学による展開機能

- ・ アジア総合研究機構、産学連携推進機構、高等研究機構（検討中）、ビジネススクール
- ・ 共同利用施設：先端科学技術共同研究センター、ベンチャービジネスラボラトリー 等

民間企業による展開機能

- ・ 研究所、コンタクト・オフィス、サテライト・ラボ、大学連携研究所 等
- ・ 公立試験研究機関、独立行政法人研究機関等による展開機能
- ・ 既存研究機関サテライト・ラボ、既存研究支援機関サテライト・オフィス、レンタル・ラボ、インキュベータ、ベンチャーサポートセンター 等

HSTを支える民間等の展開機能

- ・ 技術移転機関（TLO）、国際学術・文化交流会館、ホテル、ゲストハウス 等

各機能の役割等の詳細検討

- ・ HSTに求められる機能やその役割の区分については、産と学や民と学、産と公など明確に区分できないグレーゾーンに属するもの、あるいは共同で展開することが望ましいものなどが考えられ、個々の機能について詳細な検討が今後必要となります。

(2) 大学と相互乗り入れ、一体的な空間整備

大学施設や各施設の連続性、相互乗り入れによる一体的な整備

- ・ 大学との密接な関係を持ちつつ、一体感のあるHST展開の空間形成のために、大学法人化後に想定される柔軟な施設設置・運営の考え方を大胆に先取りし、大学施設とそれ以外の学外施設が、連続・相互乗り入れする形で、タウン・オン・キャンパスにおいて一体的な整備を図ることが求められます。
- ・ また、HST機能の展開・誘致の“マグネット”としての役割が期待される「科学技術・研究特区」については、新たな制度の実現・プロジェクト認可に向けた国への働きかけとあわせ、その受け皿となる用地の確保（取得、リースなど）についても検討することが必要です。

HST推進本部機能の設置

- ・ これらの機能の立地・展開において、大学をはじめとして立地する各機能間の交流・連携を展開していくことが必要であり、そのための推進本部（ヘッドクォーター）機能の役割が重要となります。このHST推進本部機能については、設立が予定されている九州大学学術研究都市構想の推進組織（仮称）九州大学学術研究都市整備推進機構）の役割検討の中で、機構内での設置の可能性やHSTの整備に必要な機関や機能の誘導、プロジェクト立案、HSTに関連する事業間・組織間の調整、HST

整備戦略の見直し等、具体的業務のあり方について検討します。

HSTの展開機能のゾーン区分

HST本部ゾーン

- ・ HST本部ゾーンには、HST推進の本部機能、リエゾン機能、起業・ベンチャーサポート機能、研究サポート、起業家人材育成機能等の配置を検討します。

HST推進本部(ヘッドクォーター): 地域科学技術戦略会議、地域科学技術戦略研究所、HST整備戦略の提言、HST整備に必要な機関や機能の誘致活動、HSTに関連する事業間・組織間の調整

総合リエゾン・オフィス: 技術移転、技術相談、共同研究相談、産学共同プロジェクトの立案・推進

起業・ベンチャーサポートセンター: インキュベーター、起業コンサルティング・オフィス、ビジネス・マッチング事業

研究サポートセンター: 共同研究プロジェクト支援、学会活動支援

産学共同・人材育成センター: ビジネススクールと連携した技術マネジメント教育・産学連携コーディネータ教育、技術ベンチャー育成

科学技術・研究特区

- ・ 科学技術・研究特区は、国内外の産学民公の各種主体による研究機能やベンチャー企業の展開を促進する受け皿として、研究、滞在、起業などが自由に展開できるフリーリサーチゾーンの導入を検討します。

研究開発機能等: 中核的研究拠点(COE)、国内外の大学、研究機関、企業等の研究所

企業育成支援機能: 国内外ベンチャー企業 等

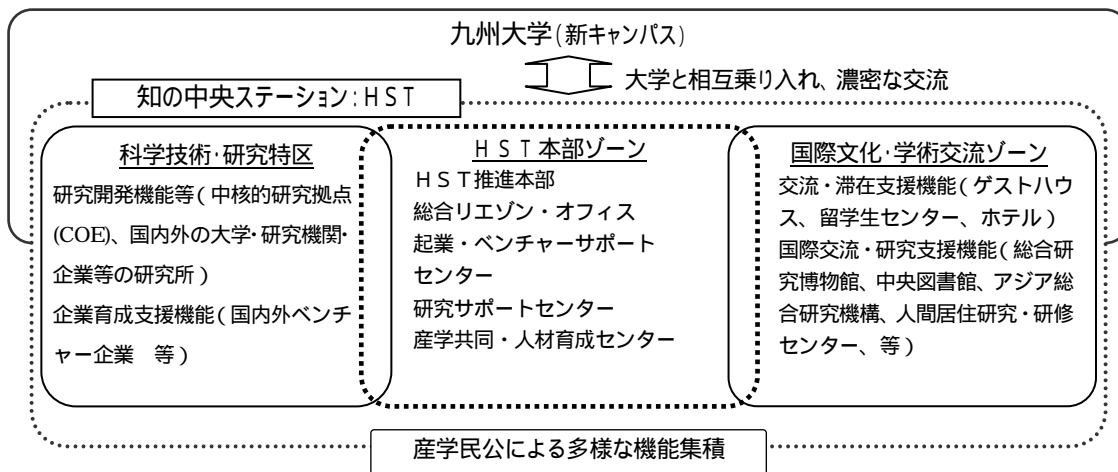
国際文化・学術交流ゾーン

- ・ 国際文化・学術交流ゾーンには、国内外に大学の知、文化を発信する機能や国際連携をサポートする各種機能の配置を検討します。

交流・滞在支援機能: ゲストハウス、留学生センター、ホテル 等

国際交流・研究支援機能: 総合研究博物館、中央図書館、アジア総合研究機構、人間居住研究・研修センター 等

“知の中央ステーション:HST”の展開イメージ -



2 - 3 「スマートダウンタウン福岡」の展開

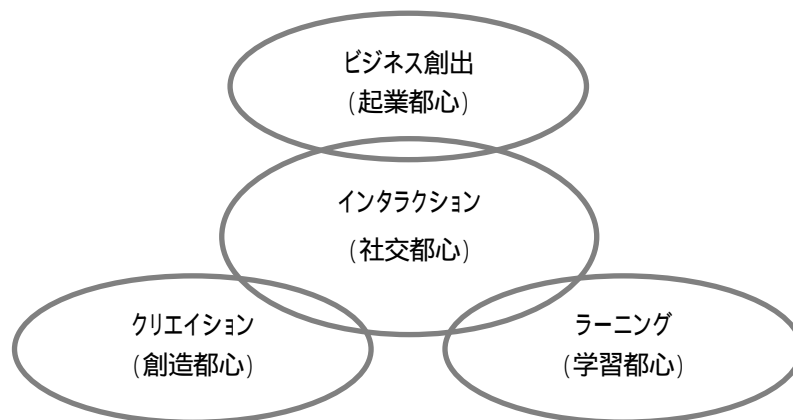
(1) 「スマートダウンタウン福岡」：4つの都心像

これからの社会・経済においてもっとも重要な資源は「知識」です。知識を生み出し、活用する仕組みの創出いかんが、競争と協働という2つの原理と交叉しながら、社会や地域経済の活力に決定的な影響を及ぼしていきます。「スマートダウンタウン福岡」が、知識社会にふさわしく、自律的な課題解決能力と創造的な事業展開能力を高めていくためには、インタラクティブな知識創造の経験を、地域やコミュニティという文脈において蓄積し、地域「学習」プロセスとして共有・普及していくことが求められます。

そこで20世紀における支店経済型の福岡都心を以下の4つの都心像にそって、「知識」をベースとした自律的な21世紀型都心「スマートダウンタウン福岡」として再構築していきます。

インタラクション(社交都心)

- ・インタラクション(相互の交流・触発行為)を活性化させるためには、オフィシャルな雰囲気のもとではなく、インフォーマルでカジュアルな雰囲気が必要です。そこで、“もてなし上手”な福岡の文化の優位性を活かし、社交上手な都心(社交都心)の形成が重要な課題として浮上してきます。
- ・インタラクションの舞台となる魅力的な「場」を「サロン」や「カフェ」など多様な形で展開し、創発的な知識プロセスを活性化させることがスマートダウンタウンの基本戦略となります。



クリエイション(創造都心)

- ・クリエイション活動の大部分は、「個」の孤立的な営みとしてではなく、異質なものとの出会いやぶつかり合いによって生まれる多様性や界限性を通じて展開されます。
- ・21世紀の都心は、大手企業のビジネスマンや若者・女性だけのものではありません。起業家、アーティスト、クリエイター、外国人、高齢者、ハンディキャップをもった人々が多様に集い、価値創造を触発しあう機会が数多く存在することが都市の活力を底辺で支えるものとなります。

ラーニング(学習都心)

- ・インタラクティブな「学習する地域」としての都心形成は、そのプロセスを牽引する人材を育てる機能、個人の学習意欲を満たす機能の整備と表裏一体です。知識の時代において真っ先に取り組むべき課題は、高度な知識と専門技能を身につけた“ワザあり人間”を生み出す教育・学習環境の整備です。専門知識の習得に向けた知的投資活動は組織・個人のいずれにとっても生涯にわたる課題として浮上しており、多様な学習機会の提供は21世紀都心型ビジネスとして可能性を増しています。
- ・「ビジネススクール」や「サテライト・キャンパス」が学習都心のコア・インフラとして気力と知

力をもった人材を呼び込み、育成し、送り出す装置となります。また、産学民公連携の舞台としてアクティブな役割を果たし、自己実現の意欲に燃えた人材を知的ネットワーク活動に繰り出していく源泉ともなります。

ビジネス創出(起業都心)

- ・知識経済への急速な移行によって、多様な人材と知識を吸引・結合していく空間としての新都心は、営利・非営利を問わず新たな事業を企画し起こしていく「ビジネス・インキュベーター」(事業孵化装置)としての役割を強めていきます。
- ・起業都心としての環境づくりにおいては、新たなハコもの整備は必要ではありません。起業マインドをもった多様な人材が期待感をもって集まる仕掛けがつけられ、そうした人々の活動を企画、開発、マーケティング、金融の各面で支えるソフトが提供されるか否かが根幹です。

(2) スマートダウントウンの2つの展開軸: 産業創出と都心キャンパス

「スマートダウントウン福岡」がめざす21世紀型都心は、「知の時代」に即応して、産業創出と都心キャンパスという2つの機能を身につけ、多様な人材と知識の交流・融合空間としての魅力を高めていく必要があります。

都市型の産業創出機能としては、ベンチャーサポート環境をインキュベータを含め多面的に整備し、都心地区での知的クラスター形成の核となる新たな研究開発・産業創出拠点の整備に努める必要があります。

また、都心にキャンパス機能を誘導していくにあたっては、サテライトキャンパスの整備・活用や、ダウントウン大学センターの設置を通じた「大学都市・福岡」の情報発信等が求められます。

産業創出の推進

ベンチャーサポート

- ・ビジネス・マッチング事業
- ・起業家ネットワーキング
- ・ベンチャー支援・産学連携機関 等

インキュベータ

- ・民間、公設のインキュベータ・ネットワーク 等

都心型研究開発・産業創出拠点

- ・シーサイドももち - システムL S Iなど情報関連産業の拠点
- ・アイランドシティ - 研究開発・新産業創出拠点 等

都心キャンパスの展開

サテライトキャンパス

- ・九州大学国際研究交流プラザ設置(西新地区)
- ・生涯学習プログラム
- ・専門人材育成プログラム 等

ダウントウン大学センター

- ・「大学都市・福岡」の情報とイメージの発信拠点
- ・共同講義・単位互換などを通じた大学間の連携
- ・I T 活用による国内・アジアの大学との遠隔教育プログラム 等

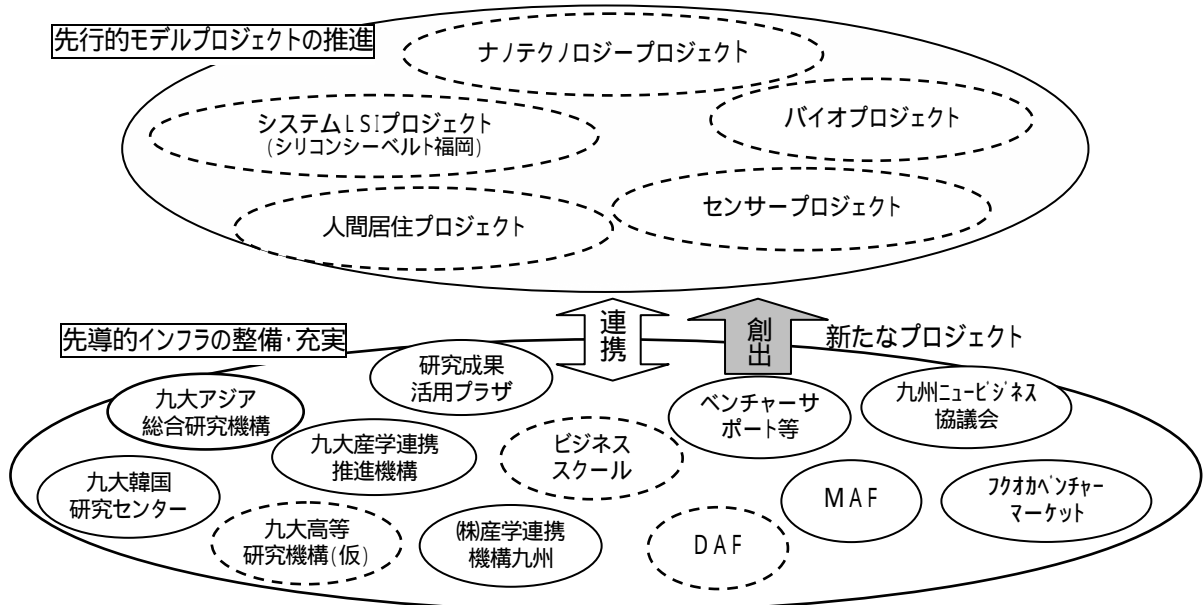
(3) DAF: 知のコーディネーター・ネットワーク

これからの都心に、知識社会にふさわしい産業創出機能、都心キャンパスという新たな機能を付加し、その可能性を広げていくには、組織のカベを超えてDAFに集う「知のコーディネータ」の役割が決定的な重要性をもってきます。知識連携の母胎となる「場」の創出や、ビジネスマッチングの実現をはじめ知的なコーディネーション能力が問われ、「スマートビル」のような形でデジタル・インフラの面的整備を各方面に働きかけ実現していくリーダーシップが求められているからです。



2 - 4 先導的インフラ事業、先行的モデルプロジェクト

先導的インフラ事業及び先行的モデルプロジェクトは、九州大学を核とする九州大学学術研究都市形成に向けて、大学の研究、教育のポテンシャルを活かして産学民公の協働による知的創造活動の吸引力を高めていくことを目的とするものです。これらの事業、プロジェクト実現に向けて、「スマートダウンタウン福岡」と連携しながら推進していきます。



先導的インフラの整備・充実

名称	概要	課題
九州大学 アジア総合研究 機構	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研究者によるアジア諸国との個々の学術交流を集約、相互に成果を参照、研究教育活動を推進し、持続的であり緊密かつ質の高い国際学術研究を実現 <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアに向けた組織の主体的取り組みの中核、全学的ネットワークによる学術研究・教育プログラム等情報提供、アジアに関する学術研究の融合の場、独自プロジェクトの企画、成果発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサルティング、情報提供等地域サービスの検討 ・アジア都市研究センター等、個々のモデルプロジェクトの推進
九州大学 韓国研究センター	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国国際交流財団により九大を日本における韓国研究の拠点として位置づけ、国内の韓国研究機関との連携による日韓学術・文化交流拠点を目指す <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国の専門研究、韓国研究者養成、共同研究推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア総合研究機構との連携 ・研究活動、交流活動の推進
九州大学産学連携 推進機構	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携（技術移転・技術相談・共同研究）を全学的に推進する部局横断のヨコ型組織、対外的なワンストップ相談窓口、「(株)産学連携機構九州」と一体的産学連携活動実施 <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対外的な九州大学のワンストップ相談窓口「技術移転推進室」設置、産学公連携プロジェクトのプロデューサー活動、特許コンサルティング事業等 	<ul style="list-style-type: none"> ・産学連携業務の裾野の広がりに対応した体制強化 ・大学法人化後の、学内組織BLO、学外組織UIPの役割分担の再構築
九州大学 高等研究機構(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究COE形成にふさわしい研究グループの組織化、リサーチコア支援のためのヨコ型組織を九州大学で検討中 	
ビジネススクール 構想	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアの期待に応える人材の育成、地域経済界のニーズに応える経営者人材、マネジメント人材の育成 <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界に通用する人材育成のための教育プログラム、日本のビジネス環境を習得できる教材の開発、地域の企業との連携による実践的教育システム、ビジネスと技術マネジメントのプロの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム、採算性検討 ・既存機関活用、複数大学連携の可能性 ・産学民公の協同プロジェクトへの展開

先行的モデルプロジェクトの推進

テーマ プロジェクト	概要	推進の課題
システムLSI 研究開発プロジェクト (シリコンシーベルト福岡)	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福岡、北九州、飯塚地域に集積する LSI 設計開発の知的集積、産業集積を核に、新産業の創出を図り、企業・人材の集積を目指し、アジアの中心となるシステム LSI 設計開発、供給の一大拠点を形成 <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材育成、 研究開発、 ベンチャー創出、 IP取引支援 	<ul style="list-style-type: none"> 急速な技術発展に対応して、早期の事業展開 九大研究教育施設と人材育成機能の連携
ナノテクノロジー 研究開発プロジェクト	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ナノテクノロジーによる広範な産業分野の革新的技術の創出 <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・先導的な研究開発と産業化を視野に入れた研究開発、 異分野間や研究者間の融合の場、 情報交換を促進する研究ネットワーク、 新たな融合領域における人材養成 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する機関、研究者のネットワーク形成 国等の研究資金の獲得と研究プロジェクトの実現 シンクロトン光施設における研究プロジェクトの展開
バイオ研究開発 プロジェクト	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産学の情報が行き交い、大学等のバイオ関連研究成果の事業化推進 多くのベンチャー企業や新規事業の創出により、バイオ関連企業が集積する地域を形成 <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報交流、 研究開発、 ベンチャー育成 中核的推進組織(サポート組織体制) 	<ul style="list-style-type: none"> 国等研究資金の獲得による横断的研究プロジェクト実現 バイオ関連ベンチャー企業育成による人材の定着 地域の関連研究者ネットワーク形成 既存研究機関の再構築と中核的な研究開発組織の設置検討
センサー研究開発 プロジェクト	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食に関して、人・地球にやさしいアメニティー空間の実現 食品の製造工程や品質の効率的な管理 新たな市場・事業の創出(世界市場) <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 味のデータベース、 味のものさし 塩味物質の研究開発、 味のITセンター 基礎感性科学センター 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の研究開発事業の横断的プロジェクトの展開 中核的な研究開発機関の設置 横断的総合研究開発の実現
人間居住研究・研修 プロジェクト	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代型人間居住システムの研究開発と教育研修の機能を併せ持つ 九大移転を社会実験の機会として、環境共生型の最新テクノロジー開発を推進するプロジェクト群をコーディネート 糸島地区に総合的に展開・実験する実験コミュニティを創造 <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究・開発、 シンクタンク、 教育・研修 	<ul style="list-style-type: none"> 環境関連の要素技術の統合システムの構築によって、新キャンパス移転の長期的にモニタリングするプロジェクトの早期実施 アジア都市研究センター等、プロジェクト推進組織の設置